



□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会

□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98

□ TEL 028(677)5033

□ <http://www.hokoren.com>

□ E-Mail : information@hokoren.com

□ 編集責任者 七井 真人

■ 本格始動の実行委員会

7月26日開催した第2回実行委員会を経て、記念事業部及び記念誌発行部それぞれが企画検討会議を開始し、創立30周年記念事業実行委員会の活動が本格始動しました。

記念誌発行部は8月1日に企画検討会議を開催、記念誌の構成内容や運営方法を検討しました。

記念事業部は8月3日と8月10日に開催した会議で、記念式典・祝賀会及び記念事業イベントに関するアイデアを持ち寄り、開催時期、場所、対象、内容、運営方法及び費用などの検討が進められました。



■ 創立30周年記念事業第3回実行委員会を開催

8月24日、細岡大実行委員長ほか11名の参加により創立30周年記念事業第3回実行委員会を開催しました。細岡大実行委員長は「時間を掛けて慎重に事業コンセプトを検討していただきました。実行委員会でコンセプト原案を審議し、次回の役員会で承認を得た上で決定します。

コンセプトに基づき本記念事業を成功させ、会員・地域の皆様が幸せを感じ、実行委員の皆さまが達成感、充実感を実感するよう一致団結して活動していきたいと思います。みなさまの活躍を期待いたします」と挨拶しました。

渡邊猛 記念事業部長が、事業コンセプト原案の検討経過を説明し、満場一致で原案を決定しました。次回役員会に諮り正式に決定することになります。

記念式典・祝賀会及び記念事業（イベント）のアイデアが報告され、様々な角度から最適案を絞り込んだ企画の説明がありました。

記念事業（イベント）では、4月の「さくら祭り」、8月の「ロマン花火」に模擬店を出店するなど、30周年記念事業の周知活動を展開した上で、記念式典や祝賀会の本番を迎える提案の説明がありました。



富永英夫 記念誌発行部長が、記念誌の構成内容や運営方法に関する検討経過について報告しました。「芳工連の昔を知る、今を見る、未来を創る」を記念誌発行の基本方針に据え、会員企業の皆さまの共感を得、活動への参加を促すことができるような構成とする提案内容を説明しました。

また、20周年記念事業実施後の10年間では、リーマンショックの影響や東日本大震災の被災など歴史的な局面があったことから、過去を振り返り、将来の参考となるような学び、教訓を伝える紙面構成とする提案の説明がありました。

■ 交通安全講習会を開催

交通防犯部会は8月6日、会員企業24社から43名の皆さまの参加をいただき交通安全講習会を開催しました。

種子俊明交通防犯部会長は「本日は真岡警察署の青木智交通課長に講話をお願いしました。是非、本日の講演内容を会社に持ち帰り、交通安全に役立てていただきたいと思います。



交通事故が多発している幹線1号線の交差点（東洋ビューティ(株)様付近）の安全対策について真岡警察署へご相談に伺い、速度違反取締りの実施などをお願いしました。芳賀町には減速の効果が期待できるドット路面標示などをお願いしました。

また、幹線1号線については、中央分離帯植栽の撤去により横断時の視認効果を高めるよう、芳賀町に施工をお願いしたところです。

さらに、管理センター前交差点から北に伸びる25m道路両側の歩道は、凸凹があって自転車走行中に転倒事故を起こしていることから、芳賀町に対策を依頼済みです」などと挨拶しました。

■ 青木交通課長による講話の要旨

(1) 平成30年の交通事故発生状況

7月末で県内の交通事故発生件数は2,700件で前年比162件の減、負傷者数は3,307人で前年比279人の減でしたが、死者数は51人で前年比1人減です。発生件数と負傷者数は減少しているが死者数はほぼ横這いとなっています。死者数51人のうち65歳以上の高齢者が33人、率にして68%を占める高齢者の高い割合が、死者数が減少しない大きな要因となっているとの説明でした。

(2) 平成29年の栃木県における交通事故の特徴

- ①交通事故死者に占める高齢者の割合が過去最多の68.4%で全国ワースト2位
- ②死亡事故に占める高齢運転者の割合が過去最多で36.7%
- ③人身事故に占める高齢運転者の割合が過去最多で21.8%
- ④死者数は前年と対比して増加した数が全国ワースト1位（一昨年比23人増）
- ⑤高齢者人口10万人あたり的高齢者数が12.3%で全国ワースト1位
- ⑥歩行中の死者35人のうち高齢者が8割であった。

このように高齢者が関係する交通事故の割合が目立っています。

(3) 真岡警察署管内の交通事故発生状況

7月末の発生件数は111件で前年比6件増、負傷者は116人で前年比4人減。死者数は7人で前年比4人増となっており、昨年1年間で6人だった死者数を既に上回る人数である。



(4) 芳賀町で発生した交通死亡事故

芳賀町では、今年になって交通事故で3人が死亡。人口10万人当たりの死者数が県内市町で突出しています。「見通しがよい田園地帯が多く、速度の上がりがちな幹線道路のバイパスなどもあり、ドライバーに油断が生まれやすい」と青木課長が指摘しています。

(5) 交通事故発生時の映像

田園地帯の見通しのよい交差点で発生した交通事故の瞬間を捉えた、ドライブレコーダーの動画を放映しました。

視覚の盲点となる周辺視野は、対向車を認識できない特性がある。交差点に進入する際は確実に首を左右に振って、中心視野で対向車を認識してほしいとの説明でした。

また、夜間に道路を横断中の歩行者を追突した車に取り付けられたドライブレコーダーの映像は、歩行者の発見が遅れ追突する瞬間を捉えたショッキングな映像でした。助手席の女性が動転して発する「アー」という、甲高い悲愴な声からも衝撃的な様子が伝わります。このような事故を起こさないためには、夜間のライトは基本的にハイビームで走行することが重要であることを再確認できます。過去5年間の幹線道路でのハイビーム運転は3.9%しかないとの説明がありました。

ハイビームの正式名称は「走行用前照灯」。ロービーム（下向き）と呼ばれる「すれ違い用前照灯」では照射距離が40メートル先までだが、ハイビームは100メートル先と倍以上の距離を照らすことができ、歩行者を発見しやすいことを再認識する映像でした。

幹線道路等で交通事故を起こした場合、追突事故や交通渋滞を回避するため、まずは安全な場所へ車両を移動した上で、110番通報することが求められるとの説明もありました。

最後に、青木課長は「管内で発生した死亡事故は、すべて現地に行って状況を把握しています。遺体を見ることになるが、なかには頭部に脳ミソがない場合もあり、脳ミソが衝突した相手の運転手の膝に乗っていた例もありました。精神的に病んでしまう方もいます。トラウマで運転できなくなる方もいます。

交通事故で悲しむのは被害者や被害者の家族だけでなく、加害者自身や加害者の家族も悲しむこととなります。誰も幸せに出来ないのが交通事故です。自分が加害者にならないことを各自が意識することが事故をなくすことと思います」との言葉で講話を締め括りました。

参加者からは「事故の映像を見て、自分では気づかない危険さを再認識させられた」、「ドライブレコーダーの映像で、交通事故の怖さを改めて感じた」などの声を聞くことができました。



■ 盛り上がる情報交換会

4部会合同の情報交換会を8月24日、宇都宮市内で開催したところ22社から29名の皆さまに参加いただきました。

芳工連の部会メンバーが一堂に会し、相互に親睦を図り信頼を高めることで芳工連活動の充実を図る目的で開催されました。

総務企画部会の中山克夫部会長が4部会長を代表して挨拶。安全衛生部会の高山大輔部会長による乾杯発声で和やかな酒宴が始まりました。暫し歓談のあと恒例の自己紹介を兼ねたトピックスを紹介いただきました。

異動で今年度から部会活動に初参加されたメンバーもおいでになりましたので、皆さまからお話のあった会社紹介や各自の近況報告は大変興味深く、良い情報として聞くことができました。

アルコールの程よい覚醒のお蔭で、普段の様子から想像できない趣味やユニークなお人柄に笑みがこぼれ、驚きと興奮で会場が盛り上がりました。

参加された皆さまは、芳工連活動の主体となって知恵を絞り、行動を実践し、意義ある成果を生み出す頼もしいメンバーです。

メンバー同士の意思疎通と信頼関係が大きな原動力となっていますので、このような情報交換会は極めて有意義です。

楽しく盛り上がった情報交換会ですが、時間の都合で交通防犯部会の種子俊明部会長に中締め挨拶をお願いしました。交通防犯部会長らしくシートベルト一本締めという、耳慣れないユニークな手締めでお開きとなりました。



■ 県外先進地調査研修会

栃木県工業団地管理連絡協議会が主催する県外先進地調査研修会が8月28日から30日に実施され、事務局長七井が県内工業団地の事務局長や県担当者とともに参加しました。

視察研修先は北海道岩見沢市の道央栗沢工業団地に立地する京浜精密工業(株)北海道工場です。京浜精密工業(株)は、栃木県の鹿沼工業団地内でも昭和45年からアルミ素材の自動車部品を製造している会社です。開発提案から設計、解析、実験評価の一貫体制や新機種部品開発のシステムなどにおいて先進的な取り組みが評価されています。

必要な部品を顧客ニーズに合わせ、必要な時に、必要な分だけタイムリーに届ける一貫通貫生産ライン(ワンピースフローライン)を開発したことで、コスト削減、時間削減、在庫効率化向上を実現し、低コストかつ高品質という理想の実現を図っています。



3Kと言われるアルミ鋳造の高温、騒音、重量物を扱う製造現場に、若い女性が就業している北海道工場の先進的な取り組みに驚きました。

少子高齢化にあって、子育て中の女性やシニア、ハンディキャップのある方が働きやすい環境を整えてきた成果だと思います。

機械周辺を働きやすい環境に改善する努力の成果は、製造現場を歩きながら機械装置周辺の随所で確認することができました。

「エイジフリー・カンパニー&バリアフリー・ファクトリー」をスローガンに掲げ、実践している先進的な会社の実態を現場で視察することができました。

■ とちぎの道現場検証を実施

8月24日に芳賀町役場で開催された「とちぎの道現場検証」に交通防犯部会の種子俊明部会長とともに事務局長七井が出席しました。

この事業は、整備が必要な道路や課題となっている道路整備について、地域住民や関係組織等の代表者とともに現地において検証を行い、検証結果に基づき行政と地域代表者との意見交換で共通認識を図り、関係省庁への整備要望に反映することを目的としています。

主催者である芳賀町見目匡町長は「国の道路整備予算は、全体枠が広がらない中で災害復興に向けられるウェイトが高い状況ですが、芳賀町にとって必要な道路整備路線は国へその必要性を強く説明したいと思います。本日検証いただく路線整備を着実に推進するため、地元関係者の共通理解を得ることが重要と理解しています」などと挨拶しました。

真岡土木事務所の船山通所長は「住民、自治会、芳工連、町議会などの皆さまと道路整備に関する課題や整備の必要性に関する共有認識を図ることが重要です。行政の判断だけでは国の理解は得られないが、地域の共通理解が得られた高いニーズがある道路整備は国も理解をしてくれることになります」などと挨拶しました。

今回の検証路線は、県道（主）真岡那須烏山線の祖母井地区及び町道三日市宮田線の2路線です。現場検証箇所の現状について町担当課長から説明を受けた後、関係路線の現場に行って現状を検証しました。

芳工連がかねてから要望しているのは町道三日市宮田線です。この路線はバイパス宇都宮茂木線の三日市交差点から旧道を東進し、ポケットパークに隣接する丁字路を北進する道路です。

当路線は、水田の中の南北道路を歩道付き幅員11mの2車線道路に拡幅する計画です。

既に、町では用地買収を先行しているところですが、工業団地周辺の交通渋滞の解消のため早急に整備できるよう要望したいと思います。



■ 盛大だったロマン花火2018

絶好のコンディションで8月4日、芳賀町観光協会主催の芳賀町ロマン花火2018が実施されました。

稲穂を揺らす心地よい風を受け、子供連れの親子や浴衣姿のカップルなど4万9千人の観覧者が夕闇迫る頃、続々と芳賀温泉ロマンの湯周辺に集いました。

イベント会場には豪華な山車が並び、賑やかにお囃子が奏でられ、花火の打ち上げを待つ会場の雰囲気一段と盛り上がります。

道の駅イベント広場には、例年以上に多品目の商品を販売する模擬店が軒を連ね、人気の店は長蛇の列となりました。

開会式に続き、拡声器からオープニングのスターメイン打上げが告げられ、5千発の花火が次々に打ち上げられました。

圧巻は、250m上空で直径240mに開花する大輪の7号玉でしょうか。特大スターメインの幻想的で芸術的な色と音に観覧者から大きな歓声が沸きました。

芳工連の会員企業様からは、これまでで最高額となる108万円の協賛金のご協力をいただきました。有難うございました。



芳工連日誌

【8月の実績】

- 1日 30周年記念事業記念誌部会
- 3日 30周年記念事業部会
- 4日 芳賀町ロマン花火2018
- 6日 交通安全講習会
- 13日～15日 管理センター臨時休館日
- 22日 資源ごみ回収日
- 23日 とちぎの道現場検証
- 24日 正副会長会議
- 24日 30周年記念事業第3回実行委員会
- 24日 4部会合同情報交換会
- 28日～30日 団管連県外視察研修

【9月の予定】

- 10日 30周年記念事業部会
- 12日 県産業労働観光部長との意見交換会
- 13日 第2回安全衛生部会
- 19日 第3回普通救命講習会
- 19日 30周年記念誌部会
- 19日 第39回ボウリング大会
- 20日 第2回交通防犯部会
- 21日～30日 交通安全県民総ぐるみ運動
- 25日 交通安全街頭広報活動
- 26日 30周年記念事業部会
- 26日 資源ごみ回収日